

第4回 日田市立淡窓図書館の今後の在り方市民検討会議
書面開催<議案>

令和7年 3月 28日

委員氏名

<議案>の記入の仕方

別紙1、**別紙3**は、異議無ければ、賛成に○をつけてください

文言の修正や追記する箇所があれば、意見に記入してください。

別紙2は、案1、案2のいずれか一方を選んで、○をつけてください

文言の修正または新たな案があれば、意見に記入してください。

※<議案>に記入できない場合は、別紙1～3を修正(二重線)し記入してください。

※この<議案>と別紙1～3(修正記入した場合のみ)を提出してください。

別紙1 報告書(案) 目次、はじめに

賛成

意見

1. 日田市立淡窓図書館が目指す図書館像(案)

別紙2 (1) 基本理念

賛成(案1・案2)

意見

別紙3 (2) 基本理念につながる5つの柱(案)

賛成

意見

参考 第3回会議議事録の概要・要点

日田市立淡窓図書館の今後の在り方市民検討会議
報告書(案)

日田市立淡窓図書館の今後の在り方市民検討会議

令和 7 年 月 日

目 次

はじめに

次頁を参照

1. 日田市立淡窓図書館が目指す図書館像(案)

(1) 基本理念

別紙2

(2) 基本理念につながる5つの柱(案)

別紙3

2. 会議の経過及び議事録(意見のまとめ)

第1回 令和 6 年 7 月 18 日(木)

第2回 令和 6 年 10 月 24 日(木)

第3回 令和 7 年 2 月 6 日(木)

第4回 令和 7 年 3 月 「書面開催」

第5回 令和 7 年 5 月 日()

3. 資料

- ・日田市立淡窓図書館の今後の在り方市民検討会議設置要綱
- ・日田市立淡窓図書館の今後の在り方市民検討会議委員名簿
- ・子どもアンケート集計結果

(参考)会議資料

既存資料を添付
今回送付省略

はじめに

淡窓図書館は築後 36 年が経過し、施設・設備が老朽化していることに加え、近年の市民ニーズの多様化により、従来の図書館とは異なった多様な機能を持つ図書館が全国各地にできていることから、日田市の図書館サービスをより市民ニーズにあつたものにする必要があります。

日田市教育大綱は「未来を切り拓き、ふるさとを愛する人づくり」を基本理念としています。また、第6次日田市総合計画第3期基本計画の教育・文化(3)生涯学習の充実の中の図書館では「図書館利用者に対するレファレンスサービスの向上に努めるとともに、新たな役割や機能をより一層充実させるため、図書館の在り方を見直し、今後の方向性について検討を行います」を基本方針としています。

そこで、令和 6 年 4 月、公募市民を含め学識経験者、福祉関係、教育関係、オブザーバー等 15 人の委員からなる「日田市立淡窓図書館の今後の在り方市民検討会議」(以降、「市民検討会議」という)を設置し、図書館の現状と課題、どのような図書館であるべきか議論を重ね、先進地視察や子どもアンケートを実施しながら、今後の在り方について検討してまいりました。

委員の皆さんによる多くの貴重な意見をもとに、日田市のまちづくりにつなげるため日田市立淡窓図書館が”目指す図書館像”を掲げ、報告書としてまとめました。

本報告書を今後の図書館サービスの改善に役立ててもらうとともに、”目指す図書館像”の実現に向けて、積極的に取り組んでいただくことを期待します。

令和 7 年 月 日
日田市立淡窓図書館の今後の在り方市民検討会議

I. 日田市立淡窓図書館が目指す図書館像（案）

（1）基本理念

案1『市民に親しまれ、市民の支えとなる拠点』

案2『人づくりを支える、学びとまちづくりの拠点』

図書館は、地域住民のための施設であり、多様な資料を収集し図書の貸出などによるサービスを地域住民に提供する役割を担っています。

しかしながら、従来のような「本を借りて帰る」、「静かな場所である」、「調べものをする」といっただけの「場所」ではなく、「友達とおしゃべりしながら勉強ができる」、「活動などの発表や作品の展示ができる」、「子どもが大きな声で騒いでも大丈夫」、「図書館に行かなくても資料や情報が入手できる」など、住民の多様なニーズに応えられるよう、より多くの住民に公平なサービスを提供することが、これから図書館に求められているのではないでしょうか。

そこで、これから淡窓図書館はどんな図書館だったらいいのか、従来とは違う未来の図書館の在り方について、「市民検討会議」で出された主な意見や「子どもアンケート調査」の小学生・中学生の意見・要望から導き出された図書館のあるべき姿は、

- ・(1)子どもたちの学びや好奇心を育む
- ・(2)誰もが利用しやすく、行きたくなる
- ・(3)郷土の歴史と文化の学びを支える
- ・(4)地域との連携や住民の交流を促進する
- ・(5)情報発信の強化とデジタル化を推進する

のように5つにまとめられます。

以上、これから日田市立淡窓図書館が目指すべき図書館像は、すべての市民が図書館の情報や多様な機能・サービスの恩恵を受け、図書館が地域活動や学びを支える場となり、地域の情報発信拠点となることが重要であることから、上記の基本理念を掲げたものです。

なお、前述の(1)から(5)の内容は、上記の基本理念につながる5つの柱（取り組むべき方向性）として、次頁以降に提案します。

(2) 基本理念につながる5つの柱（案）

(1) 基本理念を実現するため、次の5つの柱を日田市立淡窓図書館が目指す図書館像の方向性とします。

I 子どもたちの学びや好奇心を育む

- 親子で気軽に来れる環境（声を出せる部屋など）づくり
- 読書以外の興味を引き出すイベント（映画放映など）の実施
- 楽しめる場所（フリースペース、マンガの閲覧、ボードゲームなど）づくり

II 誰もが利用しやすく、行きたくなる

- サイレント部屋の設置や館内に音楽（BGM）が流れる環境づくり
- 読書や勉強に適した一人用デスクスペース（窓際）などの整備
- 日田杉を使ったベンチやくつろげるスペースなど、人が集まる場づくり
- おしゃべりができる学習スペース、グループ会議室などの整備

III 郷土の歴史と文化の学びを支える

- 日田市特有の歴史・文化・芸術等を活かした図書資料の充実
- 郷土資料等のデジタルアーカイブの構築

IV 地域との連携や住民の交流を促進する

- 図書資料貸出・返却可能な分散拠点（公民館など）の拡大
- アウトリーチサービス（利用困難者などに対する活動）の展開
- 他の分野やイベントと連携した、来るきっかけ、仕組みづくり
- 地域全体で図書館を活用（作品の展示、発表の場づくりなど）

V 情報発信の強化とデジタル化を推進する

- SNS等、様々な広報手段を活用した図書館の情報発信を強化
- ICタグの設置や自動貸出機など、館内設備のデジタル化
- インターネットに対応した電子書籍やオーディオブックの導入

第3回会議議事録の概要・要点

- ・日時：2025年2月6日 13:58～15:55
- ・場所：淡窓図書館 2階研修室
- ・出席者：12名（欠席3名）

◆全ての委員の意見内容まとめ

以下に議事録の中で述べられた全ての委員の意見を簡潔にまとめます。

●委員

1. 子どものアンケート結果について

・子どものアンケートは、以前の会議で「図書館」という表記だけだと「学校の図書館」と思うのではないかという意見があったため、「淡窓図書館」に関するものとして回答されていると考えてよいのかを確認したい。

2. 観察の感想

・個人的に小説が好きなため、小説の充実度を確認したところ、実用書が多く、小説が少ないと感じた。
・日田の淡窓図書館では、書架の入り口付近に小説や文芸書が配置されているが、他の図書館では隅に配置されていることが多く、残念に思った。

3. コンセプトや理念について

・日田市の総合計画や教育基本計画のキャッチフレーズを活用することで、目指す図書館像が明確になるのではないか。
・淡窓図書館の名称にもなっている広瀬淡窓の「読書ばかり学問でなし」という言葉の本来の意味を考え、図書館の方針に取り入れてもいいのではないか。

●委員

1. 基山町図書館の観察からの学び

・館長による案内のもと、建設前からの取り組みやいろんな工夫が確認できた。
・基山町の図書館はコンパクトながらも多機能で、人が集まりやすい仕組みが整っていた。
・淡窓図書館のリニューアル時には、基山町の図書館が検討した項目と比較したり、導入した機能を参考にしたらどうか。

2. まちづくりと図書館の関係

・過去の淡窓図書館建設時は、地域の人材育成や歴史的背景から大きな支持を得ていた。
・まちづくりの拠点として図書館を活用する視点が重要。
・図書館を単なる蔵書の場所ではなく、地域の疑問を解決する場にする必要がある。

3. コンセプトを明確化すべき

・5つの柱が示すのは具体的な改善点であり、全体のビジョンとは別に、その5項目を選んだ理由を明確にする必要がある。
・基山町の「図書館が町を変える」という明確なコンセプトが印象的。
・5つの柱となった背景や意図を説明する文章を追加し、図書館の目指す姿（コンセプトや理念）を明確にするべき。

4. 資金調達の可能性の提案

- ・市の予算に頼るだけでなく、クラウドファンディングや日田市出身者の財産寄付、企業からの支援の可能性もある。

●委員

1. 市民の作品展示・発表の場としての図書館の活用

- ・基山町図書館では、市民や学校の作品展示のためのスペースがあった。淡窓図書館には、市民や学校の作品を展示・発表する場があるのかを確認したい。

- ・アンケート結果でも「図書館の場所がわからない」という意見があったため、より多くの市民に図書館の存在を知ってもらうためにも、地域の展示・発表の場としての活用を考えるべきではないか。

2. 学校との連携状況の確認

- ・小学校や中学校と図書館の間に、現在どのような繋がりがあるのかを知りたい。

3. ボランティアの活用についての提案

- ・基山町や筑後市の図書館では、多くのボランティアが活動していた。

- ・日田市内の図書館でも同じようにボランティアの活用はできないか。

- ・ボランティアに参加したい市民がボランティア活動に興味があるとしても、1人では参加しにくいと感じたり、どう参加すればよいかわからないのではないか。

- ・例えば、図書館で読み聞かせを行うボランティアの募集や、花壇の手入れを行うボランティアを募ることも考えられる。

- ・図書館で募集情報を掲示するだけでなく、高校などと連携を活用することも今後は必要ではないか。

●委員

- ・資料4に示された図書館像の中で、来館しにくい人や図書館にあまり関心のない人を引き込むためのイベント・活動の実例や、過去の取組、今後の計画について具体的な説明を求めた。

●委員

- ・中学校部会におけるアンケート結果の詳細（小学校と中学校ごとのデータなど）があれば、より具体的な分析や共有が可能になると指摘し、細かいデータの提供を希望。

●委員

1. 保護者の意識と図書館利用の現状

- ・淡窓図書館が抱える課題についても、保護者に十分に認識されていない。

- ・子どもが「図書館に行きたい」と言っても、親が「めんどくさい」と連れて行かないケースが多い。

- ・資料4の「誰もが利用しやすく行きたくなる」の中の「保護者が子どもを連れて行きやすくなる」よりは「保護者が子どもを連れて行かない」が現実なので考え直したほうがよい。

2. ボランティアの募集周知方法の改善提案

- ・ボランティアの募集が行われていても周知が行き届いてないと思う。

- ・育友会の広報部を活用し、広報誌に掲載することで募集内容をより広く伝えられる。

- ・広報部に依頼すれば、各学校の育友会会長を通じて保護者に周知できる。

3. 図書館のコンセプト設定の重要性

- ・筑後市立図書館では「暮らしとともにある図書館」というコンセプトを明確にしていた。
- ・コンセプトがあることで、「目指す図書館像」が明確になり、具体的な取組が決まってくると思う。
- ・検討会議の委員の意見として明確なコンセプトを決めて、それを市長や教育長に提案したら良いと思う。

4. 図書館の役割を年齢層ごとに明確化

- ・「暮らしとともにある図書館」というコンセプトを採用すれば、利用者を幼児・小学生・中学生・高校生・社会人・高齢者 のように分けて、それぞれに必要なサービスを考える。そうすることで、目指す図書館像の 5 つの柱が具体的に機能するようになると思う。

●委員

1. 基山町図書館の視察に関する感想

- ・平日の午前中にも関わらず、基山町の図書館には多くの利用者がいたことに驚いた。
- ・若年層から高齢者まで幅広い世代の利用が見られ、特に学生や高齢者が調べ物や新聞閲覧などで訪れていた。
- ・図書館が地域の生活の一部として機能していることを実感した。

2. 地域課題と図書館サービスの公平性

- ・図書館は単なる「本を借りる場所」ではなく、地域課題に寄り添う施設として存在意義がある。
- ・筑後市立図書館の例を参考にすると教育委員会だけでなく、他の部署とも連携は必要である。
- ・図書館は公平なサービス展開が必要であり、子ども・高齢者・障がい者など、全世代が利用しやすい環境を整えるべき。

3. ボランティアの募集と活用

- ・昨年、児童向けイベントで高校生ボランティアを直接学校に出向いて募ったところ、多くの学生が参加した実例がある。
- ・「興味はあるが、どう参加すればいいかわからない」という人が多いため、ボランティア募集の伝え方を工夫する必要がある。

●副委員長（委員長代理）

1. 会議の進行と資料の確認

- ・事務局から提示された資料 1～4 について、これまでの会議で出された意見が統合されていることを確認。
- ・今後の協議を進めるにあたり、特に資料 4（目指す図書館像）の内容について意見を求めた。

2. 子どもアンケートの分析について

- ・子どもたちを対象としたアンケート（資料 2・3）について、どのような分析がなされているのか。
- ・学校ごとのデータに偏りがないか、旧日田市と旧日田郡での感覚の違いなどが反映されているかについて確認。
- ・アンケート回答率が 81%と高いことを評価し、データの信憑性について肯定的に捉えた。

3. 目指す図書館像についての議論の進め方

- ・淡窓図書館の今後の基本的な方向性として「目指す図書館像」を作ることがこの会議の役割であることを強調。

・資料4で示された5つの柱が、今後の図書館の方向性として適切かどうかを確認し、議論を深めるよう求めた。

・5つの柱が具体的な改善点を示しているが、それらの前提となる幹の部分「理念」や「背景となるストーリー」を明確にする必要があると補足。

4. 市民参加の促進とまちづくりとの連携

・県立図書館では、子ども食堂のイベントでボランティアによる読み聞かせをしたり連携・協働の取組を行った事例を紹介。

5. 今後のスケジュールの確認

・今後の会議の進め方について、次回は「書面開催」とする方針を確認。

・書面開催では、新たな理念や文言の修正を含めた検討を行い、5月に最終的な方向性を固める予定であることを説明。

●オブザーバー

1. 基山町図書館の取り組みと市民の関与

・基山町では、市民が自発的に集まり、有識者を招いた講演会や勉強会を実施してきた。

・町民が主導して図書館の方向性を議論し、行政とは別の形で意見をまとめていた。

・淡窓図書館の検討委員会でも、こうした市民参加の動きを取り入れると良いのではないか。

2. 議論の広がりと創造性の重要性

・これまでの議論は良い方向に進んでおり、さらに創造性を豊かに意見交換ができたら良いと思う。

・「実現しそうにないことでも、まずは自由に発想する」ことが大切。

・図書館の郷土資料の充実は重要なテーマであり、アーカイブ化などは今後の在り方にとって、いい視点だと思う。

3. 子ども向けサービスの改善提案

・「子どもたちが本を選びにくい」という意見が出ている点に注目。

・分類を完全に壊す必要はないが、子どもが本に手を伸ばしやすい工夫が必要。

・平戸の図書館では、本棚に詳しい手書きのコメントを加えるなど工夫した取組を行っている。

・漫画の取り扱いについて、今は少し増えている図書館もある。

・北欧やアメリカでは、図書館でゲームの貸し出しを行うことも一般的になっている。

4. 図書館を地域のプラットフォームにする発想

・地元出身の大学生が卒業制作を展示する場として図書館を活用する例がある。

・単なる本の貸し出し場所ではなく、地域住民やクリエイターの発信の場としての可能性を検討すべき。

・図書館スタッフが地域の作品や取組を積極的に紹介し、交流を生む仕掛けが必要。

5. 学校や地域との連携

・小中学生の共同学習の成果物が、保護者以外には見られないことが多い。

・図書館を活用して、成果物を展示できるようにすることで、地域の人々も活動の幅が広げられる。

6. 図書館の理念の重要性

・目指すべき図書館像を支える理念・コンセプトがないと、次の計画につながらない。

・例えば、以前関わった図書館では「交流と創造を楽しむ文化の拠点」という理念を定め、それを基に計画を作成した。

・「かっこ仮」の形でもよいので、これまでの意見を取りまとめ、コンセプトを定めることが一番の道筋だと思う。

7. 民間の資金の活用について

・官民連携支援センター（内閣府の支援団体）に相談すれば、民間の資金を活用したPFIという手法もある。

■事務局

1. 子どものアンケート結果の分析について

・回答（委員）➡淡窓図書館のことについて回答をお願いしますということでお願いしており、淡窓図書館のことで回答をいただいている。

・回答（委員）➡小学校と中学校で分けることはできるので、データの振り分けは、後でまた提供する。

2. 基山町図書館の事例の活用

・基山町の図書館が行った取組を日田市にも参考にできるかについては、確認してみたいと思う。

3. イベントの活動事例について

・回答（委員）➡子ども読書週間、夏休み、秋の読書週間イベントが主なイベントで、視察先の基山町図書館が行っていた上映権のあるDVD試写会などは、日田市でもできるので、いろんなイベントは今後考えていきたい。

4. ボランティアの活用・募集について

・現在、淡窓図書館のボランティアは、選書モニターの人、読み聞かせグループが3団体いる。

・ボランティアは広報ひたなどで募集をしているが、なかなか人が来ないのが現状である。

・委員からの提案（高校生のボランティア参加、育友会広報誌の活用など）を参考に、ボランティア募集の周知方法の改善を検討したい。

5. 学校や他の部署との連携について

・生徒の作品の展示は図書館でないが、障がい者週間で障がい者の作品などは展示している。

・生徒作品を図書館で展示するなどの事例の意見を踏まえ、今後取り組む項目として重要。

6. 目指す図書館像の5つの柱について

・これまでの会議で出た意見や子どもアンケートの意見をもとに、「目指す図書館像」を5つの柱として整理。

・意見のあった5つの柱とした背景や選定理由、また、前提となる「幹」の部分の記述がないので、「幹」となる理念やコンセプトについては、次回の書面開催で示すことで回答。

7. 今後のスケジュールと議論の進め方

・次回は3月に「書面開催」とし、理念や文言の修正を含めた意見を集約する予定。

・第5回会議の5月で、修正案をもとに最終的な報告書をまとめることとする。

・委員からの意見を反映しつつ、図書館の理念や目指す姿を明確にする作業を進める。

今後のアクション

5つの柱（主な意見）の「幹」の部分となる「基本理念」を新たに2、3案ほど事務局で示し、3月の会議（書面開催）を通じて資料配布し、意見（書面）を求める、5月開催の時、最終的な報告書をまとめ方針。